

# 徳川宗春「御側風説」

高家寺北川宥智現代語意識

一つ 尾張藩は公儀の作法を専らに用いる。公儀が禁止していない遊び事は、当家においても特別に禁止することはしない。

一つ 芝居などの見物に立ち入ることは問題はない。その人その人の心持ちで参加すれば良い。不参加であることが悪いというものもあるものだ。参加しないことが悪く、参加することが良いというものもある。偏った考え方はあってはならない。武芸家業を怠りなければ、鬱屈した思いを晴らすために軽い気持ちで参加した者は、慮外であったとしても咎めることはしない。あらゆることに行儀良く見物するのであれば、殿の思し召しにあい適っている。

一つ 尾張藩ではお互いの家に伺ったり、ならびに音信や贈答、その他のことを町在において賑やかにおこなっているのは、時々祭りの踊りなどのような興行をするようなものである。第一に上を祝い、下々を潤わせ、国を繁盛させることに制禁してはならない。国に法令が多ければあらゆることを隠れておこなうようになり、風俗までもが乱れ、役立たなくなっていくものと思え。

一つ 見世物見物の場所のような賑わう場所では、わけもないことと言いがかりをつけて口論となり、騒動となりやすいものである。藩士たる者はそのようにはあってはならない。もしこのようなことがあったときは、場合によっては厳しく申し付け、今までにないほどのお仕置きをする。それゆえに殿の思し召しによって仰せられている人たちが日々密かに巡検する。

一つ 表ばかりを飾り、内心の実のない者は、殿は甚だそれをお嫌いであられる。常日頃の眼力をしっかりと養うように。